

認定 NPO 法人 行徳野鳥観察舎友の会 会報 第 2 2 9 号

2018

すずがも通信

4月

2018年4月8日 発行

ISSN 2185 632X



撮影&提供 S.Iさん 「ヒヨドリと春の花」

☆表紙の写真を募集しています。あなたの力作、お待ちしております！

※すべて載せられるわけではありません。また、スタッフの独断で選ばせていただきますのでご了承ください。

夕暮れ観察会潜入！ / フィールドミュージアム特別編

冬にキ/コ？ ~キ/コ班~ / 保護区作業~冬編~

野鳥救護につき ~お掃除編~ / 保護区の鳥の様子

夕暮れ観察会潜入！！

イベント報告

2月22日、毎月行われている夕暮れ観察会に参加してきました。ガイドは友の会のD.Sさん。参加者は13名。昼間の観察会は参加したことはあるものの、夕暮れ観察会には初参加。

保護区に入るとオオバンとシジュウカラの声に迎えられ、夕日を見ながらいざ出発。

保護区の桜やエノキはすべて野鳥が運んできたもので、中でも桜はバリエーション豊かで、咲く時期が違ったり、色が沢山あるとのこと。中には薄黄色の桜も！！（この号が発行されている頃は咲き始めています。）ふと足元を見ると穴が。覗いてみると結構深そう。クロベンケイガニの巣穴でした。暖かくなると出てくるようなので、次回会えたらと思います。

カワウの繁殖場所を望む小高い丘から海面を見ると、ウミアイサの群れやオカヨシガモのペアの姿。どこからともなく哀愁たどようクイナの声も……………。

太陽が沈むと瞬く間に暗くなってゆく保護区。ライトの明かりを頼りに、帰途につきます。

出口の近くでは冬の夜空の鑑賞タイム。望遠鏡で月のクレーターを見たり、冬の大三角形をゆっくり堪能できました。

昼間の観察会とは一味も二味も違う夕暮れ観察会。とても有意義な観察会でした。皆さんもぜひ参加してみてください。新たな保護区の魅力にきっと驚きます。

～参加者の声～

- ・都会の真ん中にこんなに豊かな自然があるとは思わなかった。
- ・いろいろな鳥が見られたし、暗い道を歩くのが楽しかった。
- ・今度は春にも参加してみたい。

(ゆきおんな)



暖かくなったらひょっこり！
クロベンケイガニの巣



昼は先が見えるけど……………
竹のトンネル

夕暮れ観察会：毎月第4土曜の16時半～

○保護区産の海苔、無事収穫！

三番瀬の海苔漁師で東邦大の研究生でもあった福田武司さんは、7年前より保護区で海苔の養殖実験を行っています。初年度の最初の網以降はなかなかうまくいきませんでした。昨年度は千鳥水門沖に網を浮かべるやり方で立派なノリが育ちました。そして同時に、昨冬は保護区海岸部のヨシにノリ(養殖実験由来のスナビノリ)が自生(付着)しているのが見つかりました。

ノリは糸状態という目には見えないサイズで春夏を牡蠣殻等の隙間で過ごし、水温の下がる秋に再び葉状態という普段目にする形となり、冬に生長していきます。2017年秋、何も付けていない網(通常養殖ではノリの種を付けた網を使用する)を築山(つきやま)前の海面に設置したところ、11月にわずかながら付着が見られました。保護区内でノリの生活サイクルが一周した訳です。

その後の生育状況は悪く、このまま消失するかと思われましたが、3月に入り急激に育っているのが確認でき、急遽3月11日にフィールドミュージアム特別編として海苔漉き体験会を実施しました。



網からノリを手摘み



海苔簾で乾燥中

参加は11名。40枚分が出来上がりました。東京湾で自生ノリのサイクルが回ったのはかなりレアな事例と思われます。今年の付着量を考えると来シーズンはどうなるかわかりませんが、今後も続けていけるといいですね。

次回

4/15 フィールドミュージアム <町田池>

5/20 江戸前干潟研究学校<未定>

5/27 フィールドミュージアム<干潟生物調査>

研究会の調査活動やイベント情報をお知らせするメーリングリスト(月1回程度配信)もあります。

登録希望の方は友の会までアドレスをご連絡下さい。

(研究会事務局 047-397-9046 担当:野長瀬雅樹)

今年は大気不順で秋のキノコがいまいちでした。台風去って11月、「もうキノコのシーズン終わっちゃったよね」とあきらめ気味のキノコ班一同を迎えたのは、クロマツの落ち葉の堆積からのぞく、たくさんの小さなキノコ！ 移植ごてでそっと掘り起こしてびっくり。キノコは地面に埋もれたマツカサから生えていたのです。

ニセマツカサシメジと、マツカサキノコモドキ。11月～2月の調査まで、クロマツの足元で見ることができました。

竹林の中の通路わきに、伐採して積まれたアカメガシワがあります。ここは湿度が高く、しかも適度に風通しと日光もあり、キノコにとって棲み心地が良いようです。6月の調査で見つかったちょっと変わったキノコ、クロサイワイタケ科の仲間は、すっかり姿が変わっていました。同じキノコとは思えませんが、焦げたマッチ棒のような姿は成熟して胞子を飛ばすための姿です。

このアカメガシワに発生したもう一つの冬のキノコはウスヒラタケでした。保護区ではまれな(?) 食べられる(しかも美味しい)キノコです。残念ながら調査の中に「食べてみる」は含まれていません。「美味しいかもなあ」と想像するにとどめるのもまた、キノコのオツな楽しみ方かもしれません。(キノコ班 Nさん)



ニセマツカサシメジ

マツカサキノコモドキ



クロサイワイタケの仲間(未成熟)



クロサイワイタケの仲間(成熟)



ウスヒラタケ

ニセマツカサシメジ (ハラタケ目ホウライタケ科)
マツカサキノコモドキ (ハラタケ目タマバリタケ科)
ウスヒラタケ (ハラタケ目ヒラタケ科)

一緒にキノコを探しませんか？キノコ班は毎月第2木曜日の13時から！

お問合せ：047-397-9046 観察舎まで

☆最近の保護区作業～新浄化池植生コントロールしてました～☆

棚田状の湿地が広がる新浄化池は、3系・4系と水の流れが2系統あり、渡り鳥のシギやチドリなどが降りてくれるよう開けた浅い水面を維持するようにしています。しかし、時間が経つにつれ徐々にアシやガマ・ナガエツルノゲイトウなどに覆われ水面が見えなくなってきましたので、毎冬どちらかの水を止めて地面を干上げた上で、重機などを使った植生コントロールを行っています。

今年の冬は3系を行いました。一部は前回の作業時(2年前)に重機での作業ができなかったのが実に3年ぶり。そういった場所はその間さらに植物が侵入してきており池の内部がほとんど見えなくなっていました。

植生コントロールは大きく3つの工程に分かれ

1. 水を落とした池の草刈りと刈った草のまとめ
2. アシやガマなどの地下茎を切るためユンボを使い地面ごと掘返し、次の作業がしやすいよう踏み固めてならず
3. ならした部分にトラクターをかけて地下茎をさらに粉砕



ユンボで掘り起こすと
地中には大量の根が！



トラクターがけ

出てきた虫たちを狙って鳥がやってきます。



モズ♀



タヒバリ

☆最近の保護区作業つづき☆

途中で大雨が降ったりして地面が緩くなると作業が止まってしまうので、天候に大きく左右されます。幸い今冬は1月に雪が降ったもののそれ以外はおおむね天候も良く作業を順調に進めることができました。

2月末から水を戻し始めて今のところはいい感じに見受けられます。これから春の渡りシーズンになりますので、渡り鳥達が利用してくれれば作業の甲斐もあったというものです。

暖くなるにつれ植物の勢いも増してきます。今後も水の付いた状態でトラクターをかけるなどして抑制していくことになっていきますが、さていつまで持たせられるのでしょうか？



2月28日 作業終了・水戻し

野鳥救護につき

禽舎の床面をオガクズからお風呂マット&人工芝に完全移行して1年ほど。中部屋・大部屋では鳥の収容数が多いため、毎日ほとんどのマットと芝を洗っています。特に大部屋は床面も磨くため以前より作業はハードになりましたが、床材変更の目的だった衛生面は以前より良くなったと感じます。



↓↓大部屋掃除 ビフォー&アフター ↓↓



1・2月 保護区の鳥の様子～待ちわびて 春～

2018年1月から2月の保護区鳥類調査の結果です。この2ヶ月で62種を記録しました。今季は珍しくエナガがシジュウカラたちと混群を作り保護区で越冬しています。その他、ズグロカモメ、ヒレンジャク(1/13)も記録しました。ウミアイサが今年は多く最大9羽ほど確認されています。メスの前で2羽のオスがディスプレイしている姿も見られました。カワウコロニーはどんどん巣が増え、1月下旬頃には300巣を越え、雛が確認されましたが、1/22に雪がたくさん降り巣の数は3分の1ほど減りました。2/17にはウグイスのさえずり(谷渡りも)が記録されました。春ですね。

(川上 正敬)

水鳥類

| | |
|-----------|--------|
| オカヨシガモ | カワウ |
| ヒドリガモ | アオサギ |
| マガモ | ダイサギ |
| カルガモ | コサギ |
| ハシビロガモ | オオバン |
| オナガガモ | タシギ |
| コガモ | イソシギ |
| ホシハジロ | ユリカモメ |
| キンクロハジロ | ズグロカモメ |
| スズガモ | セグロカモメ |
| ウミアイサ | |
| カイツブリ | |
| カンムリカイツブリ | |
| ハジロカイツブリ | |

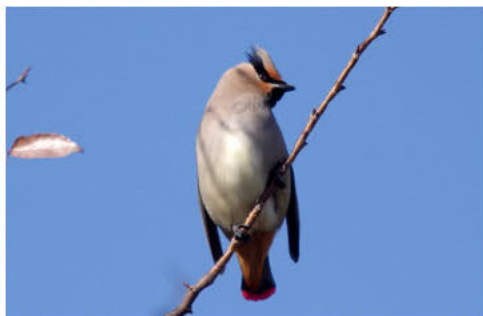
その他小鳥類

| | |
|---------|---------|
| キジバト | シロハラ |
| カワセミ | アカハラ |
| コゲラ | ツグミ |
| モズ | ジョウビタキ |
| オナガ | スズメ |
| ハシボソガラス | ハクセキレイ |
| ハシブトガラス | セグロセキレイ |
| シジュウカラ | タヒバリ |
| ヒヨドリ | カワラヒワ |
| ウグイス | ベニマシコ |
| エナガ | シメ |
| メジロ | ホオジロ |
| ヒレンジャク | アオジ |
| ムクドリ | オオジュリン |
| | ドバト |

猛禽類

ミサゴ
トビ
チュウヒ
ハイタカ
オオタカ
ノスリ
チョウゲンボウ
ハヤブサ

ニュース



1月と3月に目撃されたヒレンジャク。
保護区では数年に一度姿を見せるレアもの。
実はまだ一度も実物を見たことがない・・・。

(By スタッフ S)

♪♪♪ イベント案内 ♪♪♪

●→雨天中止 ★→荒天中止 ☆→小雨決行

●ボランティアデー(毎月第4土曜)

スタッフと一緒に保護区の管理作業をしてみませんか？

4/27、5/25(土) 13時～16時ごろ

集合：行徳野鳥観察舎前

作業内容は未定。開催日の3日前～前日に下記連絡先

にてご確認ください。お楽しみに！ **祝日でも開催！**

(前回)



←2/24 観察壁の補修
(参加者9名)

3/24 水路の掘り下げ
(参加者7名)

●5/12(土) 愛鳥週間探鳥会

初夏を感じながら鳥を見に行きませんか？

集合：行徳野鳥観察舎前 時間未定

※詳細はお問い合わせ下さい。

6/10(日)、11(月) 谷津干潟の日



時間 9:00～17:00 ※雨天決行

場所 谷津干潟自然観察センター

定例観察会

●定例園内観察会(毎週日曜・祝日)

集合：行徳野鳥観察舎前 13時半～15時半

★定例新浜探鳥会(毎月第2日曜日) 5月13日、6月10日

集合：行徳駅前前の広場(改札出て左) 10時～ 持ち物：昼食、飲み物、

参加費：200円(18歳未満は無料) 「放水路経由コース」は+バス代 400円(子供200円)

・「新浜保護区コース」保護区内→観察舎前/解散 13時半

・「放水路経由コース」バスで江戸川水路まで→保護区内→観察舎前/解散 15時半

◎主催：行徳野鳥観察舎友の会、日本野鳥の会東京、千葉県野鳥の会

☆夕暮れ観察会(毎月第4土曜日) 4月28日、5月26日

集合：行徳野鳥観察舎前 16時半～18時半

●平日観察会(第1木曜日 ※祝日の場合は翌週) 5月10日、6月7日

集合：行徳野鳥観察舎前 10時～12時

●ミニガイド(毎週土曜日 ※第4土曜日・祝日・イベントがある日はお休み)

集合：行徳野鳥観察舎 13時半～14時

すずがも通信 No.229(隔月発行) 2018年4月8日発行 * * * * *

発行所

特定非営利活動法人行徳野鳥観察舎友の会

TEL:070-1491-9898(直通)

[千葉県行徳野鳥観察舎 〒272-0137 千葉県市川市福栄 4-22-11 TEL:047-397-9046]

E-mail: tomonokai_suzugamo@ybb.ne.jp

URL: http://gyotokubird.wixsite.com/npofgbo

編集/堀江聡美、岩崎加奈子、鈴木陽子

印刷/株式会社プリントバック



Instagram



twitter

年会費

- ・賛助 3000円以上
- ・普通 2000円
- ・電子 1000円
- ・ジュニア(18歳以下)500円
- ・法人・団体 10000円以上

